

今日のみことば

□ 11月26日(日) 民数記 20章

新しい困難が起こると、神の恵みの業を忘れてすぐにつぶやき始めた。ここではモーセとアロンも神への信頼に失敗してしまった。

□ 11月27日(月) 民数記 21章

エドム人領土の迂回で、疲れた民はまたつぶやき始め、モーセを責めた。イスラエルの長い行軍の間にいろいろなことがあった。信仰生活が戦いの生活であることを暗示している。

□ 11月28日(火) 民数記 22章

イスラエルを恐れたバラク王は、預言者バラムを呼び寄せてイスラエルを呪わせようとした。バラムがそれに応えて行く途中、天使はろばの口を開いてそれを阻止した。

□ 11月29日(水) 民数記 23章

バラクの知識の源泉は神であることが分かったとき、彼は賄賂で誘惑されても脅されても、神が彼に示された真理以外のことを語ろうとはしなかった。

□ 11月30日(木) 民数記 24章

主にとらえられたバラムは、イスラエルについて祝福をし、彼らについて良いことを語った。モアブの王バラクは自分のために雇ったバラムが、自分の願いを語らなかったので怒った。

□ 12月1日(金) 民数記 25章

神はイスラエルを、敵の手から民を守られるようにされたがモアブの女たちがイスラエル人を誘惑して、主に対しする不実を行わせ、偶像を拝んで、罪を犯した。

□ 12月2日(土) 民数記 26章

イスラエルの民は待ちに待った約束の地への入国のためにその準備をしなければならなかった。そこでもう一度、新しい人口調査が行われた。

ろば No. 1843
2017年 11月26日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ロマ 10:1

兄弟たち、わたしは彼らが救われることを心から願います。彼らのために祈っています

私はパウロの「わたしが心から願ひ、彼らのために祈っているのは、彼らが救われることです」との祈りを、いつも心に留めさせていただいています。あなたの心の願ひは何ですか。問われてどう答えられますか。私はいつもその問いの前に立たされています。そして私は、いつも立ち止まらされています。なぜなら欲張りだからです。そして私は、神さまあなたにご存じでしよう、問い返すことしばしばです。私たちは生かされている世界が、平安であることは私たちの共通の願ひでは、と思っています。でもそれは適わないことです。すでに立ち位置が適わないからです。それをパウロは「わたしには深い悲しみが、わたしの心には絶え間ない痛みがあり

ます。わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならばキリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っています。」(ロマ9:2-3) といいました。なぜ神からの平安が私たちのうちにはないのか。どれほど人々が神に問うてきたことでしょうか。そしてその理由にたどり着くことがなければ、その問題は解決はあり得ないのです。その問題の解決のためならば自分のいのちが神から見捨てられてもいとわないとパウロは言うのです。パウロは何かを知っています。そしてそのことを私たちに、しっかりと受け止めようとする命がけの仕事である、ということなのです。私たちは神に対し

て罪人であることをしっかりと確認をしなければなりません。罪赦されて、み言葉に生きる者とならねばならないのです。私たちは何事があるとも、万物の主である神を、見つめて生きる者です。私は皆さんと一緒に旧約聖書を学ばせていただきながら、神の正しさと厳しさに目を見つめさせられることしばしばです。その神の厳しさは、そのことを通して私たちをさらに高みへと、導いて下さろうとして、その慈しみの中において下さることを、私たちは知っているのです。真実に生きて、クリスマスをお祝っているものが承知していることです。それがなぜ今日の世界の混乱が続いて、絶えるときがないのでしょうか。それこそが神のなさろうとしている真実を、見つめることができない愚かさのゆえです。神は造られたものすべてを良しとされたお方です。どの一つも神の目には尊うものです。それがお互いに理解しえ合えないでいるのは、とても絶えられないことです。私たちはどれほどそのことが分かっているのでしょうか。世界のすべてのものは、神の愛の中にいるということを、私たちは理解していないのかも知れません。自分だけが神さまに愛されている、と思違いしているのではありませんか。だから他のものを除こうとする。それでは世界に平和くるはずがありません。イエスが「わたしは言うておく。敵を愛し自分を迫害する者のために祈りなさい」(マタイ5:44) 言われた言葉が思い起こさなければなりません。私は、パウロの心からの願いはここにあるのではないか。そして私たちが願っている平和もまた、ここにあるのではありませんか。であるとするなら私たちがなすべきことは一つです。しっかりと主イエスの福音を語り、み言葉に生きることです。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

ルカ 1:5-25 はじまり はじまり

私たちは神さまがなさることを理解することは、とても難しく困難です。ルカは皇帝テオフィロに、何が起きているかを伝えるためにこの福音書を書きました。「わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました」といって、主キリスト誕生の次第を書き表しました。これは皇帝テオフィロだけの問題ではありませんで、全人類がしっかりと聞いておかなければならない重大事です。

ルカは「わたしたちの間でした事柄について」と書き始めましたように、伝えられてきた救い主の来臨は確かであり、預言されてきたように、事は始まったと言うのです。私たちはイザヤを通して、厳しいさばきのことばの後に語られた、慰めの言葉を聞かせていただきました。どのようにして事が起こるかを聞かせていただいていたことを思い起こさせたいいただきます。



Read God's Word.